

制作特論 1

対象	3年次	開講期	前期	区分	必	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	栗原、榎原、浅沼、鮫島			実務経験	有	職種	画家、予備校講師				

授業概要

最高学年として、より複雑なモチーフや条件の課題内容を実践します。また、支持体もB3サイズから木炭紙大に変更し、大きな画面での作品制作を目指します。観察力・表現力を養うために、教室内にセットしたモチーフや配布されたモチーフを主に鉛筆でデッサンします。さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、石膏像やモデルや自分自身の体もモチーフになります。1枚の作品を3週で制作することで、作品の計画・表現・検証・仕上げのプロセスを繰り返し体感します。(制作特論 1 は表現研究 1 の続きの授業となります。)

到達目標

この科目では、実際のモチーフを主に鉛筆を使用し、二次元画面に立体的に表現出来るようになることを目標とする。具体的には、さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、およびモデルや自分自身などの人体をよく観察して描くことで、解剖学的・構造的に理解し、モデリングやアニメーションをはじめとしたCG制作に役立てることである。また、構図、光、質感表現など作品の絵作り、見せ方の基本も学ぶ。

授業方法

実習形式でモチーフやモデルを鉛筆でデッサンすることを中心に行う。制作を通じて描写や観察のトレーニングを繰り返し、形態の客観的な把握(形を合わせる)、透視図法を基にした空間・立体表現、より緻密に観察した質感現、を得体得する。3年次前期は、大型モチーフを大画面に描き、モデルや風景を新たな視点で見つめなおし各自のテーマを見つけ、自主的に制作を進められるようとする。

成績評価方法

試験・課題50%完成した企画の完成度について評価する。平常点 50%積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。

履修上の注意

ここでは、実際に描いて経験しデッサンを自分の感覚の中に取り込むことを重視する。したがって、描き、モチーフと比較検証し、直し、より対象に近づくという姿勢が大切であり、制作途中段階での比較検証を怠ったり、完成を焦って直すべき構図や形態をそのままに放置するという態度はとるべきではない。うまく出来ないことを恐れずに積極的に描いてみることが上達に繋がる。

教科書教材

鉛筆デッサンきほんの「き」必要に応じてモチーフや資料を配布する。

□

回数	授業計画
第1回	静物デッサン 適した構図の検討、モチーフの印象を捉える
第2回	静物デッサン モチーフの構造を理解し、正確なプロポーションを測る
第3回	静物デッサン ディティールを詰め、遠近感を意識する

第4回	人物デッサン 適した構図の検討、モデルの印象を捉える、クロッキーの実践
第5回	人物デッサン ポーズや人体構造を理解し、正確なプロポーションを測る
第6回	人物デッサン ディティールを詰め、遠近感を意識する
第7回	大型静物デッサン 適した構図の検討、モチーフの印象を捉える
第8回	大型静物デッサン モチーフの構造を理解し、正確なプロポーションを測る
第9回	大型静物デッサン ディティールを詰め、遠近感を意識する
第10回	細密デッサン・着彩 デッサンでモチーフを細密に再現する、質感についての特徴を理解する
第11回	細密デッサン・着彩 デッサンの白黒表現で得た情報から、着彩で明度・彩度・色相の表現に繋げる
第12回	細密デッサン・着彩 デッサン、着彩を見比べ、双方のディテールを詰める
第13回	想定デッサン 条件に沿った構想を考え、様々なパターンを検討する
第14回	想定デッサン 想定モチーフに対しての特徴や情報を検討する
第15回	想定デッサン 3つのモチーフの関係性を描く